カスタネット通信

カスタネット

2023年4月号

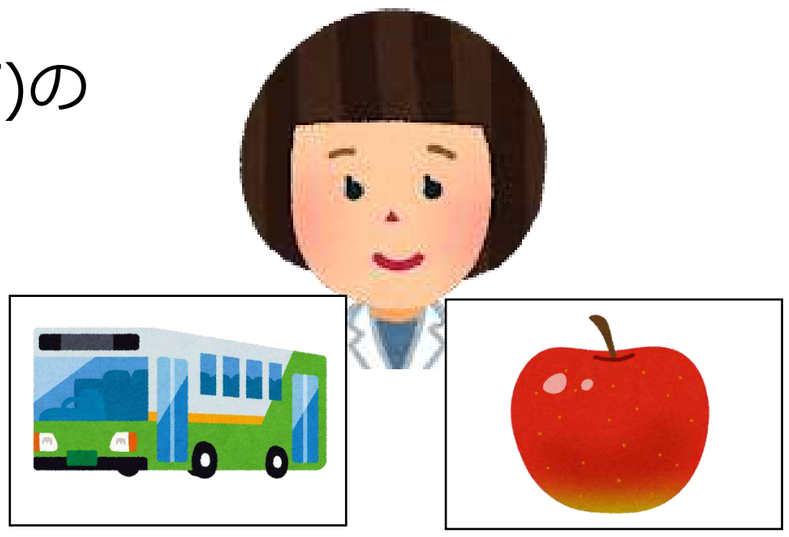
　カスタネット通信では、誤った発音を治すための“構音訓練”についてこれまでに何度か(2020年７月号、2021年９月号)ご紹介してきました。構音訓練を目的に受診される方はとても多いため、改めて取り上げたいと思います。

構音検査

「発音が悪い」「はっきりしゃべれない」「さ行がた行になる」といった主訴で受診した場合、まずは構音検査を実施します。構音検査は①単音節、②単語、③文、④会話の4つの課題からできています。

① 単音節
「あ」、「さ」、「わ」など、1音1音言語聴覚士(ST)の発音を模倣して言ってもらいます。

② 単語
絵カードを見て「リンゴ」、「バス」などのその名称を言ってもらいます。



③ 文
簡単な文を復唱してもらいます。

④ 会話
　検査の前後、途中でSTが色々な質問をし、お子さんと会話をするのですが、この時にSTは日常会話での発音の誤り方や、お子さんの発話がどれくらい他者に伝わるか(発話明瞭度)などを評価しています。

　構音検査では、どの音がどのように誤っているか、誤りはいつも起こるのか、誤り方はいつも同じか、といったことを調べます。また、構音の誤りの要因や構音訓練をいつから始めるかということの資料にするため、聴力検査やことばの発達の評価を行うこともあります。また、舌や口唇など発音をするときに使う構音器官の動きを調べる検査もあります。

構音訓練の対象

　4～5歳で完成される音もあることから、多くの場合は年中の後半～年長の前半に練習を始めることが多くなります。

構音訓練は
・STの説明を聞き、STの口唇や舌の動かし方を見て、同じようにやってみる
・STの発音を聞いて、正しい音と誤った音の違いを学ぶ
・自分の発音が合っているか聞きながら練習する

　ということの繰り返しです。耳も目も良く使い、集中して課題に取り組む必要があります。ことばの発達が遅い、難聴があるお子さんの場合は、お子さんのそれぞれの状況にあわせて構音訓練開始の時期を考えます。

構音訓練の流れ

ステップ1：音を作る、単音節
鏡やストロー、舌圧子と呼ばれる舌を押さえる棒など色々な道具を使って、出ていない音を"作る“という段階です。

ステップ2：無意味音節
ステップ1で正しい音が作れたら、その音の後ろに母音をつけたり、母音の後ろにターゲットの音をつけたり、ターゲットの音を母音で挟んで、負荷がかかっても正しく発音できるように練習します。

ステップ3：単語
ステップ2が上手にできるようになったら、単語での練習に進みます。単語の練習はターゲットの音が語頭、語尾、語中に含まれる単語というようにステップアップしていきます。

ステップ4：短文・文
単語でターゲットの音が上手に言えるようになったら、今度は文で練習します。

ステップ5：文章・会話
文まで上手に言えるようになったら、絵本をたくさん読んだり、ゲームをしたりしながら、定着を目指します。

「す」の場合(ステップ3)

(ステップ4)

病院でSTと一緒に練習し、それを毎日ご家庭で練習してもらいます。構音訓練は受診時にSTと練習するだけではけっして改善しません。毎日繰り返し練習することが必要なので、ご家族の協力が必須です。発音練習の宿題をしているとき以外は子どもの発音が誤っていても、訂正しない、言い直させないといった注意点もあります。診察室前の壁にも構音障害・構音訓練について説明をしたチラシをご用意しています。併せてご覧ください。

新たな趣味？

生活環境・習慣が変わったことで新たな気づきがありました。それは『植物を育てることは楽しい』ということです。在宅時間が増えたこと、オギジビのST室は大きな窓があって、植物を育てるには良い環境であることから、家でも職場でも植物を愛でています。植物についての知識は無く、ネット検索をして情報を得ているのですが、補聴の外来にいらっしゃる方々が「栄養失調」「水足りてない」「鉢が小さい」などありがたいアドバイスをくださいます。残念ながら、枯らしてしまった植物もありますが…。
春、成長の季節です。植物の変化を楽しみながら、日々過ごしたいと思います。

根元にかわいい蕾が次々と出現！２週間後にはきれいに咲きました。ガーベラの成長の速度には驚かされます。

新しい葉っぱがたくさん出てきて、クリスマスシーズンが楽しみなポインセチア(左)と、徒長ぎみのカランコエ(右)。植え替え＆剪定が必要かもしれません。

おぎはら耳鼻咽喉科
OGIHARA E.N.T.Clinic